



金善ビル

お洒落な外観、若者にも人気
街の変遷を見守るランドマーク

本町五丁目足利銀行桐生支店に隣接して建つ「金善ビル」。

大正末期に建てられたもので、地上四階建ての近代的なビルは当時の桐生の家並の中では、いやがうえにも目立つものであったし、煉瓦造りの第一銀行と並んで、桐生の目抜き通りのシンボルだった。

明治36年(1903)に金居善太郎氏が「金善織物工場」を創業し、社業は発展を遂げた。同38年(1905)の織機数が20台、従業員35人だったのが、大正6年(1917)になると力織機は200台となり、従業員は170人に膨れあがった。これは当時、東洋織布(株)桐生工場に次ぐ規模、この工場は現在の堤町にあったが、二代目の金居常八郎氏が出張所として独立して建てたのが、事業所の名前を冠した「金善ビル」であった。

現在の当主金居善八郎氏は、「当時、丸ビルを手本に建てられたという話を聞いています。建物の半分以上を占める広い階段にその影響が見られます」。また、「事務所というよりも外来の客をもてなす場としての役割が大きかったようです」と語る。丸ビルの完成が大正12年(1923)であるから、金善ビルの建設はこの年以降ということになる。

第二次世界大戦中、企業の統合整理により同工場は廃業の止むなきに至った。戦後は事務所ビルとして利用された時期があり、特徴のある五階部分は老朽化のため取り壊された。

1階と地階はカフェバーとして使われており、天井が高く、レトロ感覚に溢れ若者たちの人気の店となっている。90年にわたり本町通りのランドマークとして、桐生の繁栄を見続けてきた記念的な建物が風格あるまち並み風景を創り出している。

- 国登録文化財（有形建造物）
- 所在地／桐生市本町5-345